

小学2年生から毎年応募!

第53回 ENEOS 童話賞 作品集「童話の花束」

1970年からスタートし、半世紀近く続いている賞で、国内外から1万編を超える応募がある。有名な童話作家や絵本作家等による選考の結果、入賞作品を1冊の作品集として刊行したものを。



「キリコさんの窓」中学生の部で佳作に!

(中学3年生で応募)

本を書くのも読むのも好き。プロの挿絵が付くことが夢で小学2年生から応募し続けた倫子さん。学校の机のそばに中里の自然が見える窓があり、そこから着想を得て想像して作品を書いた。選考委員から「きれいな文章」「イメージが豊か」等と評価された。この作品集は、各図書館で貸出できるようにしているので、ぜひ手にとってみてください。

本が好きになったきっかけは?

家に本がいっぱいあり、親に読み聞かせをしてもらった。児童館では、読み聞かせの先生が選んだ絵本を、風呂敷を広げて見せてくれて「どんな本が来るのかなあ」と楽しみだった。小さい頃から色々な絵本に出会えたから本が好きなんです。本の紙のにおいや新刊のノリがパリパリしてるのも好き。記念図書館の本は、児童書を読み尽くしてしまったので大人の本に進んでいて世界が広がり自分の成長を図書館で感じました。

これからどんな作品を書きたい?

今回ほめられたところを活かし、もう少し長い話に挑戦したい。頭の中にあるものをがんばって完成させたい。作品はパソコンで書いています。

次の作品の主人公は?

大人になると書けないかもしれないので今の自分と同じ等身大の主人公を書きたい。



キトちゃんクイズ (こたえ)

- ③ 入口から入ってくるお客様の顔がよく見える場所だから

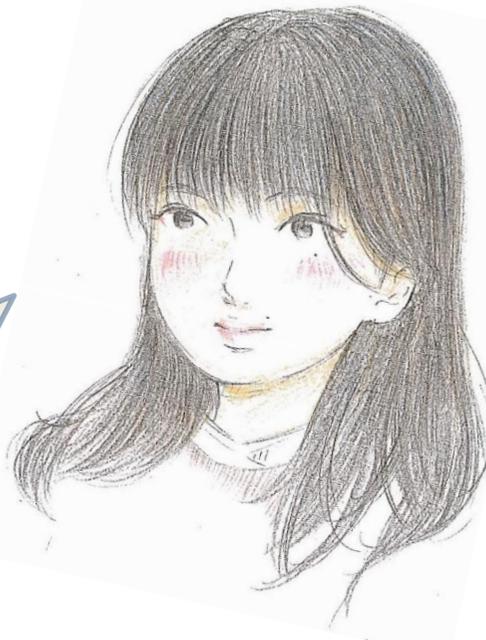


ひたちキラ人

菊池 倫子さん

Kikuchi Tomoko (高2年生)

日立でキラッと輝くステキな生き方をしている人にインタビューしました



図書館と倫子さんとの出会い

倫子さんが小学生の時、記念図書館のバックヤード見学に参加し、地下の閉架書庫で約19万冊の本を目にする。かつて自分がリクエストした1冊の本を、そこから探し当てた司書をスゴイ!と感じた。

そして、中学2年生の職場体験実習で再度訪れた時「1冊の本にたくさんの人が関わっている」という司書のコトバに「自分の手元に来るまでに、小説家、出版社、図書館の人、いろんな人が頑張ってくれていて、さらに感謝するようになった」という。

「みずならのいのち」
作・絵：手島 圭三郎
出版社：リブリオ出版



主人公は、シマリスが埋めたどんぐりから成長したみずなら。北海道の厳しい自然環境で様々な試練に遭いながら800歳になるまでの木の一生を描いた作品。

好きな作家さんは、いますか?

小学生の時から好きな絵本作家で、手島圭三郎先生です。北海道の動物が主役で、先生が版画で描いている。生きる喜びが伝わってきて、作品が素晴らしくて好き。小学2年生の時に「みずならのいのち」を読んで感想文を書いて送ったのがきっかけで、先生からお手紙等をいただくようになり何年も文通が続いています。

手島圭三郎先生からアドバイスをもらっていますか?

感想文を送った返事に「小説を書くことに挑戦してみたら」というコトバにとっても勇気をもらいました。今回、童話賞の報告をしたら87歳の先生から「お年寄りの気持ちがよく分かってますね」と感想をいただき、がんばって書いて良かったと思いました。憧れの人に言われると嬉しさが一層増しました。「目標が大きいほど達成した喜びが大きくなるよ」とも言われているので、小説家に挑戦したいと思っています。



こどもとしょじつで前館長と一緒に